

11/12 本誌

女川再稼働知事「同意」

宮城被災地の原発初

東北電力女川原発2号機（宮城県女川町、石巻市）の再稼働について、宮城県
の村井嘉浩知事は11日、再稼働の事実上の前提となる「地元同意」を表明しまし
た。東日本大震災の被災地での原発再稼働への同意は初めて。

県民の意向触れず

村井知事はこの日、石巻市で「地元同意」を連絡し
た。東北電力女川原発2号機（宮城県女川町、石巻市）の再稼働について、宮城県
の村井嘉浩知事は11日、再稼働の事実上の前提となる「地元同意」を表明しまし
た。東日本大震災の被災地での原発再稼働への同意は初めて。

住民怒り

「県民の総意でない」

11日午後、東北電力女川
原発2号機の再稼働の地
元同意の最終判断をする
村井嘉浩知事と須田嘉朗・
女川町長、奥山敏・石巻市
長の会談会場となった原の
石巻合同庁舎前。再稼働に
反対する市民団体がスタン



会場前でスタンディングする市民団体＝11日、宮城県石巻市

を呼び、旗やプラスターを

掲げてアピールしました。
会談が始まる1時間以上
前から、寒風の中をスタン
ディング。道行く自動車か
ら手を振り激励する市民の
姿がありました。須田女川
町長が到着すると「女川原
発は再稼働するな」の大き
な声が続き渡りました。
会談終了後、村井知事の
「地元同意」表明を受けて、
市民団体53団体を代表して

「ないみやぎアクション」
の多人数世話人は怒りの
抗議声明を発表。「再稼働
はこれで終わりではない。
同意は、断じて『県民の総
意』ではなく、再稼働問題
が決められることを求め
た。



記者会見する左から須
田町長、村井知事、奥山
町長、奥山敏、石巻市
長、11日、宮城県石巻市

安全も住民も置き去り

女川再稼働 知事の「同意」

県民世論反映されず

東北電力女川原発2号機の再稼働をめぐる、宮城県知事と石巻市長との間で、知事と市長の間に「地元同意」が示された。しかし知事は11日、すでに賛成を示しているが、72%の知事が「地元同意」すべきかは、「いいえ」が「はい」の倍近くの57%に上りました。

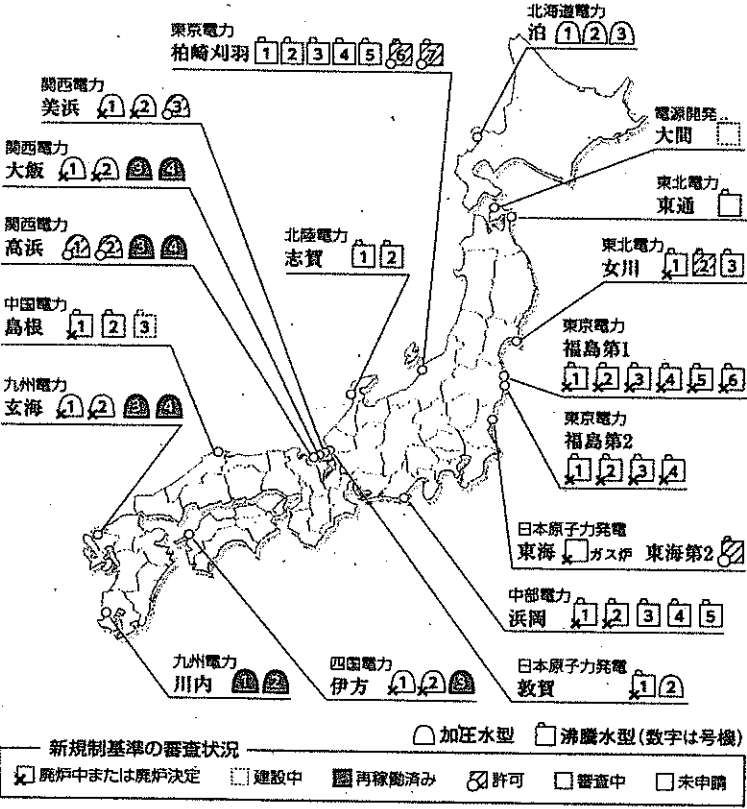
再稼働に反対する53の市民団体はこれまで請願署名を7回、累計15万7634人分提出しています。「脱原発をめざす県議の会」や「みやぎ女性議員有志の会」など、超党派で再稼働に反対する動きも広がっています。今年9月に仙台市で開かれた再稼働反対の県民集会では、約800人がデモ行進しました。2018年の再稼働の是非を問う住民投票条例制定の署名は、11万人余が集まりました。知事の「地元同意」は、さまざま形で示された「再稼働反対」の県民世論に背を向けたものです。(高橋拓丸)

再稼働の是非について住民が直接関与する機会はなく、村井知事が最終判断をして政府に回答しようとしています。

市町村長会議では、さまざまな意見を15首長が発言した。地元紙・河北新報の世論調査(10月27日付)では、再稼働に反対する53の市民団体はこれまで請願署名を7回、累計15万7634人分提出しています。

女川原発 宮城県女川町と石巻市にまたがる東北電力の原子力発電所。重大事故を起こした東京電力福島第1原発と同じ沸騰水型原子炉(BWR)が3基あります。1号機は1984年6月、2号機は95年7月、3号機は2002年1月にそれぞれ営業運転を開始しましたが、11年の東日本大震災で全基が停止しました。震災時、外部電源5系統のうち4系統が遮断したほか、火災の発生や原子炉建屋が浸水するなど重大事故になりかねない事態でした。1号機は18年に廃炉が決定しています。2号機は再稼働に向け対策工事完了を2022年度と見込んでいます。

全国の原発の状況



政府の無責任な推進

東北電力女川原発は東日本大震災の当時、外部電源5系統のうち4系統が失われ、取水路から建屋の地下に海水が浸水するなどあわや重大事故という事態でした。建屋には多数のひび割

れが生じ、建物の堅さである剛性の低下も確認されています。また、女川原発はこれまでの大きな地震の揺れに繰り返し見舞われており、地震や津波のリスクが高い場

所です。国の地震調査研究推進本部によるとマグニチュード7クラスの地震の今後30年以内の発生確率は90%程度とされています。

女川原発は、事故を起こした東京電力福島第一原発と同型の沸騰水型炉（BWR）。同事故後に再稼働した原発は9基ですが、いずれも西日本の加圧水型炉（PWR）で、東日本やBWRはいまだ再稼働に至っていません。

BWRは、放射性物質の環境への放出を防ぐ格納容器的容量が小さく、格納容器の破損を防ぐためフィル

ター付きのベント（排気）

装置の設置を必要としています。ベントでは、フィルターで放射性セシウムなどをこじとりますが、全てを取り除くことができない上に、希ガスなど全くフィル

ターの効果がない放射性物質もあります。放射能を閉じ込める対策を放棄しています。

女川原発は、牡鹿半島の中ほどに位置し、主要な道路は海岸に沿って曲がりくねった山道です。女川原発の半径30km圏内には7市町に約20万人が居住。5km圏内と半島部や離島部合わせ

ると約35000人です。宮

城県の試算では、30km圏内の人が一斉に避難し信号の調整などをしなかった場合、5km圏内の人たちが目的地に着くのに5日以上かかります。

事故が起きたら、住民の安全は守れないとの不安の声を置き去りにすることは許されません。

今回、政府は原子力規制委員会が規制基準に適合すると認めるとすべし、再稼働に同意するよう地元を要請しています。無責任な原発推進政策の転換こそ必要です。（「原発」取材班）